

Femline Kagoshima

法人向オンライン女性健康相談サービス

Femline

KAGOSHIMA

中間報告

Femline Kagoshima

医師による法人向けオンライン健康相談サービス

POINT

1 医師が相談対応を行う

POINT

2 匿名利用で気軽に相談できる体制

POINT

3 女性従業員だけでなく、経営者・管理責任者・
同僚男性にも課題喚起や情報提供を行う



乳腺外科

乳房の症状

女性泌尿器科

排尿・骨盤臓器脱
などの悩み

産科・婦人科

女性特有の悩み
不妊の悩み

美容外科
美容皮膚科

肌のトラブル
美容の悩み

- 1 WEBプラットフォームの構築／コンテンツ、インターフェース、ロゴ作成、システム構築
- 2 企業への協力依頼／5社 従業員数6,300人（うち女性従業員数3,800人）
- 3 アンケート設計／事前意識調査（オンライン・オフライン併用） 管理職向け・女性従業員向け
- 4 印刷物制作／案内パンフ（A5・三つ折り、女性従業員向け）、管理職・女性従業員向けアンケート



- 5 医師向けガイドライン制作／遠隔健康医療相談及び操作マニュアル作成、医師へのレクチャー実施
- 6 サービス開始／協力企業へ案内・訪問・各種印刷物引渡し。ローンチ10月11日。プレスリリース。
URL <https://femline.jp/public/>



事業を実施して分かってきたことや課題

Femline Kagoshima

1 事前アンケート 回収状況 管理職者：168名 女性従業員：743名（10月25日現在・オンラインのみ）

○共通

※事前アンケート最終締め切り 11月中旬

- ・「フェムテック」の認知はほぼ無し
- ・ライフステージごとの健康課題への理解を深める社内研修の必要性（男女）

○管理職

- ・男性管理職の女性従業員への関わり方や必要なサポートの仕方がわからない

○女性従業員

- ・女性特有の健康の悩みには個人差があり、女性同士でも理解を得られない
- ・深刻な悩みを抱えている女性従業員がいる
- ・若年女性従業員の健康リテラシー向上の必要性
- ・加齢や更年期に対する心理的な悩み、不安への対応の必要性（今回のサービスで対応不可）

2 相談者／婦人科5名、美容皮膚科3名、女性泌尿器科2名（10月25日現在）

- ・遠隔健康医療相談サービスの範囲を利用者に十分に伝えにくい
- ・遠隔健康医療相談の範囲や役割の正しい理解を得られなければ、サービスの信頼確保、品質の担保ができない
- ・女性自身の健康リテラシーや健康管理能力の向上の必要性

3 フェムテックサービスの需要と運営体制、その他

- ・一定の需要があり、法人のサービス導入の可能性もある。課題は収益化、品質担保、遠隔健康医療相談サービスの範囲策定（行政ガイドライン）
- ・上記に伴う相談対応者（医師あるいは医療専門職）の拡充、連携、研修のあり方

- 1 WEBシステム、フローの問題確認、運営体制の強化
- 2 事前アンケートの集計・分析、協力企業や医師へのフィードバック、ヒアリング
- 3 利用者アンケートの集計・分析、協力企業や医師へのフィードバック、ヒアリング
- 4 医療情報の編集、医師への監修依頼
- 5 協力企業拡大（サービス利用者の拡大）の検討
- 6 サービスの事業収益化方法の協議

